

募集要項

第33回 日本社会福祉士会 全国大会・社会福祉士学会(島根大会) 分科会発表の募集を開始します！！

A

2025年7月5日(土)～6日(日)に島根県松江市(くにびきメッセ)にて「第33回日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会(島根大会)」を開催します。本大会のテーマは、「いのち・権利・暮らしをまもり、支えるソーシャルワーク～人と地域をつなぐ縁結び社会へ～」です。以下「2. 分科会のねらい」に記載のテーマでの発表者を募集します。

分科会は、都道府県社会福祉士会会員の皆さまによる社会福祉実践と理論の研究発表の場となっています。このたび、個人発表分科会について見直し、第33回島根大会から新たに「報告」分類を設けることとしました。特に社会福祉士としての実践をされている多くの会員の方からのご応募をお待ちしています。

分科会発表申込の詳細については、本要項3ページ目以降の分科会発表申込要領をご覧ください。本分科会申込様式については、2024年12月1日以降に本会ホームページで公開いたします。ぜひふるってご応募ください。

<分科会発表申込の概要>

- 発表資格：日本社会福祉士会の正会員に所属する社会福祉士(本要項においては「会員」とする。)
- 発表内容：①個人発表の場合：発表15分、質疑15分以内(採用数は計15本程度)
②自主企画シンポジウムの場合：3時間以内(採用数は1企画程度)
※個人発表、自主企画シンポジウム、ポスター発表の複数に申し込むことはできません。
- 申込数：1人1発表
- 募集期間：2024年12月1日(日)～2025年3月5日(水) 必着 [郵送]

1. 学会開催のねらい

- (1) 時代が令和となり、世界規模で人間の「いのち・権利・暮らし」が脅かされる状況が続いています。私たち社会福祉士にはウェルビーイングを高めるためのソーシャルワーク実践が期待されています。この期待に応えるためには、ソーシャルワーク専門職のグローバル定義において中核原理とされている、「社会正義」「人権」「集団的責任」「多様性尊重」に基づく実践のありようを問う必要があります。本学会では、会員の独自性・創造性豊かな実践と研究を基に、ソーシャルワークの本質に迫ります。
- (2) さまざまな実践現場における社会福祉士の活動に基づく発表と質疑応答、意見交換を踏まえて、社会福祉士が目指す方向性を明らかにし、専門性の向上を図ります。

2. 分科会のねらい

分科会には「個人発表」と「自主企画シンポジウム」がありますが、どちらも生涯研修制度の6領域(社会福祉士がとらえる「権利擁護」「生活構造」「相談援助」「地域支援」「福祉経営」「実践研究」)をテーマとした発表を通して、これからの社会福祉士実践についての議論を共有することを目的としています。

「権利擁護」分科会

人権には「自由権」と「社会権」の二つの視点が認められる。特に「社会権」の擁護はソーシャルワーク実践の中核をなしており、社会が協働してそれを実現する必要がある。そのために社会福祉士が担うべきことの探求や、権利擁護にかかるソーシャルアクションが求められている。そのことが社会的合意につながり、制度政策に結実するため、利用者本位の支援を実現するため市民参加による権利擁護システムが求められる。また社会福祉士が果たすべき役割・機能の近未来を見据えた実践について考える。

発表例

- 権利擁護の取り組み実践と課題
- 権利擁護にかかわる多職種連携やネットワーク
- 成年後見制度・日常生活自立支援事業の課題と展望
- DV・虐待事例など具体的ケースへの援助
- オンブズマン、苦情対応等による権利擁護の実際
- 権利擁護への住民参加の取り組み・推進事例

「生活構造」分科会

生活課題は、社会とのインターフェースで起こるとされている。世間の価値観に生活者は影響を受けやすい。生活者と生活環境の関わりを見据えながら、社会福祉士は、生活構造を的確に分析・把握できる能力が求められる。人と環境との相互作用として生活全体をとらえ、生活を動的に理解した上で、問題の背景や将来への見通しをも含めた支援を展開することが社会福祉士に求められている。「生活とは何か」「自立とは何か」「参加とは」を手がかりに、社会福祉士が果たすべき役割・機能の近未来を見据えた実践について考える。

- 発表例** ○生活問題の重層化・長期化・多様化への取り組み
○利用者の多様なニーズに対応するケアマネジメント
○若者の雇用環境、低所得者、失業問題など新たな生活課題への取り組み
○親子で抱える負の連鎖、教育機会の不均等、中途退学等など教育機会の確保
○滞日外国人等の生活問題への対応

「相談援助」分科会

社会福祉士には、専門職としての「価値」「知識」「技術」に基づいた相談援助が求められる。「生活の質」「自立」「自律」など、生活のさまざまな側面に着目していかなければならない。また社会福祉士の活動範囲も広範となっている。潜在的な福祉ニーズを抱える者へのアウトリーチや地域や組織への働きかけ、さまざまな職種との連携も相談援助活動に含まれる。多様な分野で活躍する社会福祉士の機能・役割の近未来を見据えた実践について考える。

- 発表例** ○援助困難事例と家族療法
○問題解決過程で発生した専門職のジレンマ
○社会からの逃避と再参加にむけた支援法
○施設における利用者支援の実際と課題
○クライアントを発見するアウトリーチの実際

「地域支援」分科会

社会福祉士には、サービスが総合的かつ適切に提供されるよう、地域に即した創意工夫が求められている。地域を基盤とした支援の展開が重要視される現在、人々が生活する地域のあり方が変化している。個人・家族を取り巻く環境としての地域に働きかけ、変革を促し、新たな地域のつながりをつくるために、社会福祉士に求められる機能・役割の近未来を見据えた実践について考える。

- 発表例** ○NPO 法人によるあらたな福祉実践
○地域における生活困難者のサポート体制づくりと実践
○地域における多職種ネットワーク形成活動
○社会排除に関する実態把握とその支援
○社会資源の効果的活用と新たな資源創設活動
○独立型社会福祉士による実践

「福祉経営」分科会

今日、福祉ニーズの多様化と共に供給源の多元化が求められている。特に法の支配のもと公による「規制」と「助成」という従来の枠組みから、持続可能な社会保障制度確立のため、制度の根本的見直しも検討されつつある。自律的な福祉経営やイコルフिटティングの議論などが展開される一方で、福祉実践現場の実情は人材確保や質の向上、価値や倫理の問題などの課題が横たわっている。この状況下、社会福祉士は福祉経営を通じてサービス利用者と従事者、経営者の架け橋となる組織マネジメントを担い、ガバナンスやコンプライアンスをふまえたマネジメントが期待されている。

- 発表例** ○各種法人の現状と課題
○各種法人における品質管理の手法
○人材育成・人事考課と職場管理の取り組み
○職場における業務改善・業務開発
○苦情対応やリスクマネジメントの現状と課題
○外国人労働者及び緊急雇用対策における失業者の介護労働市場への参入における課題
○公益法人のあり方と経営実践

「実践研究」分科会

社会福祉士としてより質の高い支援を提供するためには、自らの実践を振り返り、評価・検証し、研鑽を繰り返すことによって力量を向上していくことが不可欠である。また第三者に対して、援助の意義や効果を根拠と共に適切に説明できる能力も求められる。さまざまな課題に取り組む社会福祉士の実践を検討することによって、社会福祉士が実践すべき援助活動について考察する。

- 発表例** ○社会福祉士の実践活動とその評価
○社会福祉士養成教育における実習指導の現状と課題
○スーパービジョンや研修に関する実践報告
○災害ボランティア等における社会福祉士の取り組み
○出所者支援における社会福祉士の取り組み
○犯罪被害者支援における社会福祉士の取り組み
○就労支援における社会福祉士の取り組み

「自主企画シンポジウム」

会員の自主的な企画によるシンポジウムです。社会福祉実践にかかわる内容であれば、テーマ・形式は問いません。養成機関と現場との連携、多職種ネットワーク、地域で検討されている課題、都道府県社会福祉士会での効果的な研修・研究の実践など、参加者と共に討議できる機会を大いに活用して下さい。

分科会発表 申込要領



下記の要領で分科会の発表者を募集します。ふるってお申し込みください。

	個人発表	自主企画シンポジウム
発表資格	<ul style="list-style-type: none"> ・申込および発表（発表者およびコーディネーター）は都道府県社会福祉士会会員に限ります。 ・共同研究者には非会員が入ることができます。ただし、発表者と共同研究者の人数を合わせた中で、非会員が半数を超えることはできません。 ・自主企画シンポジウムのシンポジストの半数以上は会員としてください。 ・発表（登壇）者／コーディネーターがお申込みをしてください（その後の連絡窓口も同様）。 ・<u>個人発表者、自主企画シンポジウムのコーディネーターおよびシンポジストは、別途全国大会の参加申込みが必要です。</u> 	
発表分類	「研究」または「報告（自らの実践において社会福祉士間で共有したいこと、今後の活動として伝えたいこと、など）」どちらか1つ選択してください。	/
申込数	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1発表です。 ・個人発表、自主企画シンポジウム、ポスター発表の複数に申し込むことはできません。 ・1人が申し込めるのは個人発表、自主企画シンポジウム、ポスター発表のいずれか一つです。共同研究者としての参加については、重複しても構いません。 ・すでに他学会等で発表したものと同一内容の発表はご遠慮願います。（都道府県社会福祉士会における学会等での発表は除きます） 	
申込様式	以下の①、②の様式を揃えて提出してください。 ①「個人発表」分科会発表申込書 ②「個人発表」分科会発表要旨原稿（A4・2枚）	以下の①、②の様式を揃えて提出してください。 ①自主企画シンポジウム発表申込書 ②自主企画シンポジウム発表要旨原稿（A4・2枚）
<p>※申込様式は、いずれも本会ホームページよりダウンロードしてください。 ※ワード等で作成した鮮明なものを提出してください。</p>		
申込方法	<ul style="list-style-type: none"> ・申込開始：2024年12月1日（日） ※郵送にてお申し込みください。 ・申込先：〒160-0004 東京都新宿区四谷1-13 カタオカビル2F 公益社団法人日本社会福祉士会 学会運営委員会 事務局担当：林 宛 	
締切	<p>申込期間：2024年12月1日（日）から2025年3月5日（水）まで【郵送】</p> <p>※申込様式が本会事務局に届きましたら、受領通知のハガキまたはメールをお送りします。</p>	
発表要旨原稿作成上の注意	<p>「個人発表」および「自主企画シンポジウム」の発表要旨原稿（以下「原稿」という）は、別途定める「研究倫理規程」ほか関係する規程類、ガイドライン【本会ホームページ参照】を遵守したうえで、下記の点に留意して作成してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 提出された原稿は抄録集の版下として印刷しますので、ワード等で作成した鮮明なものをお送りください。 2. 原稿全体を統一するため、提出された原稿に事務局で若干の修正を加える場合があります。あらかじめご承知おきください。 3. 原稿はA4版横書き、1頁40字×40行、2枚で作成してください。 4. タイトル、サブタイトル、見出しのフォントはゴシック体、10Pt、太字にしてください。 5. 発表者、共同研究者の氏名、所属先などの情報、および本文のフォントは、明朝体、10Ptとしてください。 6. 共同研究者が都道府県社会福祉士会会員の場合は、氏名、会員番号、所属する都道府県社会福祉士会を記載してください。会員外の場合は、氏名と所属先名称を記載してください。役職名の記載は必要ありません。 7. 発表者氏名の前には「○」を付けてください。 8. 原稿の余白は、上下左右を25ミリとしてください。 9. 本文の見出しに使用するナンバーは右記のとおりとします。Ⅰ， 1， （1）， 1）， ① 10. 図、表、写真の解像度等は製版可能な水準で、通し番号、タイトルを付してください。 11. 括弧、句読点は、和文中では全角、英文中では半角に統一してください。算用数字は一桁は全角、二桁以上は半角としてください。 12. 引用文献（本会ホームページ参照）は適切に記載してください。 	

	個人発表	自主企画シンポジウム
審査	<ul style="list-style-type: none"> ・申込数や内容等を勘案・審査し、学会運営委員会が採否を決定します。 ・審査対象は発表要旨原稿のみとなります。 ・採用にあたっては、実践に基づく発表、シンポジウム企画を優先することがあります。 ・内容等については、学会運営委員会が助言をする場合があります。 ・採用数が定数に満たない場合、追加募集する場合があります。 	
採用数	<p>◆採用数：計15本程度</p> <p>発表分科会および発表分類については、テーマ・内容等を勘案し、他の分科会へ変更または発表分類を変更のうえ、発表をしていただく場合があります。</p>	<p>◆採用数：1企画程度</p>
採否通知	<p>2025年 4月末頃（予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記日程を目処に、申込者に採否を通知します。 ・採用者以外の方へのコメント等の対応は致しませんので予めご了承ください。 	
要旨原稿提出	<p>採用された方は、採用通知に記載された修正コメントに基づいて発表要旨原稿を修正してください。提出された発表要旨原稿は、抄録集に掲載いたします。なお、審査後の修正コメント以外の加筆は認めていません。</p> <p>修正期間： 2025年 4月下旬～5月中旬 ※詳細は、採用通知でお知らせします。</p>	
発表	<p>時間配分： 一発表30分（発表15分、質疑応答15分）です。</p>	<p>時間配分： シンポジウム全体を3時間以内で企画してください。シンポジストの人数および発表やフロアとの質疑等の時間配分は自由です。</p>
発表	<p>以下の事項について、詳細は採用通知でお知らせいたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島根大会では、パワーポイントの使用が可能です。 ・当日配布資料：当日配付する資料がある場合は、各自でご用意ください。部数は後日お伝えします。 「個人発表」では、仕上りの体裁がA4サイズで1枚程度としてください。 （例：A4両面刷り、A3二つ折り両面刷りなど） 「自主企画シンポジウム」では、枚数制限は設けない予定ですが、登壇者の責任において配布や残部の持ち帰りを行うようにしてください。 <u>全国大会会場での印刷はできません。また学会運営委員会および大会実行委員会でのコピー対応はいたしません。</u> ・その他：島根大会の学会発表は、参集開催のみの方向で検討しています。 <ul style="list-style-type: none"> ：分科会発表者と発表テーマは5月下旬頃(予定)、本会ホームページに掲載します。 ：発表当日はガイダンスへの出席、会場待機の指定時間等、遵守事項があります。 ：発表いただいた方の中で、ご本人のご了解を取ったうえで、発表要旨原稿を学会発表の一例として研究誌『社会福祉士』に掲載させていただく場合があります。 	

多くの会員の皆さまからのご応募をお待ちしています！！

公益社団法人 日本社会福祉士会
学会運営委員会

◇問い合わせ先◇

(公社) 日本社会福祉士会 事務局 担当：林

TEL:03-3355-6541 FAX:03-3355-6543 E-mail: hayashi@jacsw.or.jp